

信頼の

KITO
CORP

キトーレバーブロック®

(L4形、LL形共通)

取扱説明書

お客様へ

- ・作業者の方は必ずお読みください。
- ・管理者の方も必ずお読みください。



キトーは産業界のお役に立つ、荷役機械の提供に取組んで半世紀余、常にお客様の安全を考えた製品造りを基本としております。お客様の正しいご使用と適切な管理によって、さらに一層の安全が確保されましょう。

安全は、キトーの願いです。

使用目的

このレバールックは人間の手引力を使って、通常の作業環境下、荷を水平・斜め方向から引寄せたり、つり上げたり、また荷を締め付けたりする作業を目的に、設計製作しております。人間の運搬用途として設計製作されたものではありません。

安全上のご注意

レバールックの使い方を誤ると、つった荷の落下などの危険な状態になります。据え付け、取り付け、運転・操作、保守点検の前に、必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報、そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。

この取扱説明書では、注意事項を「危険」、「注意」の2つに区分しています。

◆ 危険

取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起これて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。

▲ 注意

取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起これて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合。

なお、▲ 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

安全要約

◆ 危険

- 取扱説明書及び注意銘板の内容を熟知しない人は運転しないでください。
- 定格荷重を超える荷は、絶対につらないでください。
- つり荷の下や、つり荷の動く範囲に入らないでください。また人の頭上を超えて荷を運搬しないでください。
- 損傷を受けたり、異音がするレバールックを使用しないでください。
- ロードチェーンに次の異常があるときは絶対に使用しないでください。
 - ・ねじれ、もつれ、亀裂、かみ合い異常があるもの
 - ・規定より伸び、摩耗が大きいもの
- レバーにパイプなどを差し込んだり、足で踏み付けるような操作は絶対にしないでください。
- 製品及び付属品の改造は絶対しないでください。

— 目 次 —

使用目的	P 1
安全上のご注意	P 1
安全要約	P 1
1. 梱包をあけて	P 3
2. 使用条件	P 3
3. 遊転機構	P 3
4. 使用上の安全注意事項	P 4
4-1 始業前チェック	P 4
4-2 安全操作のための注意	P 5
4-3 作業終了後の注意	P 6
5. オプション仕様	P 6
6. 管理の仕方	P 6

注意：この取扱説明書は、事前の予告なく一部内容を変更することがあります。

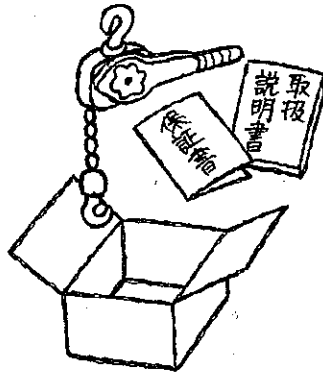
管理者の皆様へ

この取扱説明書は実際にレバールックをお使いになる作業者の方を対象として内容をまとめております。
定期点検・修理等の管理を担当される方のために別途部品表、点検要領等の管理資料も準備しております。
最寄りのキトーまでお申し付けください。

適用法規

手動レバールックのご使用に対し、法規上特段の規制はありません。しかし安全確保のため、「クレーン等安全規則」をご参照のうえ保守管理を実施し、また作業者の方に玉掛け技能や、クレーンの運転の教育を実施されることをお勧めします。

1. 梱包をあけて



- ご注文の仕様に間違いはありませんか。
- 外観、内容物等に異常はありませんか。
- ネームプレートを見て書き入れてください。

Model Lot No.

購入年月日

販売店名

修理や部品の必要な時、この情報も合わせて連絡してください。

2. 使用条件

(温度) $-40^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$ でお使いください。

(湿度) 100%以下でお使いください。水中での使用はできません。

(部材) 標準材で構成。スパークレス等の特殊材は使用しておりません。

■ その他詳細仕様は、カタログを参照してください。

注意 特殊環境下でご使用になられる時には、事前に、キトーまでご相談ください。

3. 遊転機構

■ レバーブロックの特徴の一つは遊転機構です。機能を良く理解することも安全作業の第一歩です。

危険 遊転操作は荷をつった状態では絶対してはいけません。

L4 形		・はや巻き操作 ■ キリカエツマミを (遊転) か (巻) にセット。 ■ ユーテンニギリを時計方向に回すとロードチェーンのタルミを調整できます。 ・遊転操作 ■ キリカエツマミを (遊転) にセット。 ■ ユーテンニギリを引き上げる。 ■ ロードチェーンが手で自由に上下し、長さを調節できます。 ・遊転戻し操作 ■ 負荷側のロードチェーンを手で引張りながら、ユーテンニギリを時計方向に回す。
LL 形	・はや巻き ■ キリカエツマミを (巻) か (戻) にセット。 ・はや戻し操作 ■ ハヤマキニギリを時計方向に回すとロードチェーンのタルミを調整できます。(巻) ■ 反時計方向に回すとロードチェーンを巻下ろす。(戻) ・遊転操作 ■ キリカエツマミを (遊転) にセット。 ■ ロードチェーンの長さを手で上下自由に調節ができる。 ・遊転戻し操作 ■ キリカエツマミを (巻) にセット、ハヤマキニギリを時計方向に回す。	

■ 遊転状態で強くロードチェーンを引き過ぎると、ブレーキが締まりロードチェーンが動きません。一度巻き戻し作業をして、ブレーキを解放して下さい。

4. 使用上の安全注意事項

4-1 始業前チェック

⚠ 危険 日常点検が安全の第一歩。作業者は必ず日常点検を実施してから作業を始めてください。

- レバーブロックの作業条件は日々変わることも考えられます。取付け場所の強度は十分ですか、都度確認してください。
- 作業内容を確認、余裕のある定格荷重・揚程のレバーブロックをお使いください。
(ロードチェーンの継ぎ足しはできません。)
- 特につり上げ作業にご使用になるとき、揚程は必ず確認してください。
- 作業環境を確認、作業の邪魔になるような障害物はあらかじめ整理しておきましょう。

—— 日常点検 7つのポイント ——

① 外観上、傷や破損はないか。
定格荷重がはっきり読めるか。

② ロードチェーンに傷や
ネジレはないか。
油はついているか。

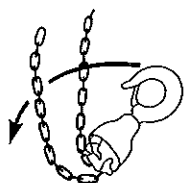
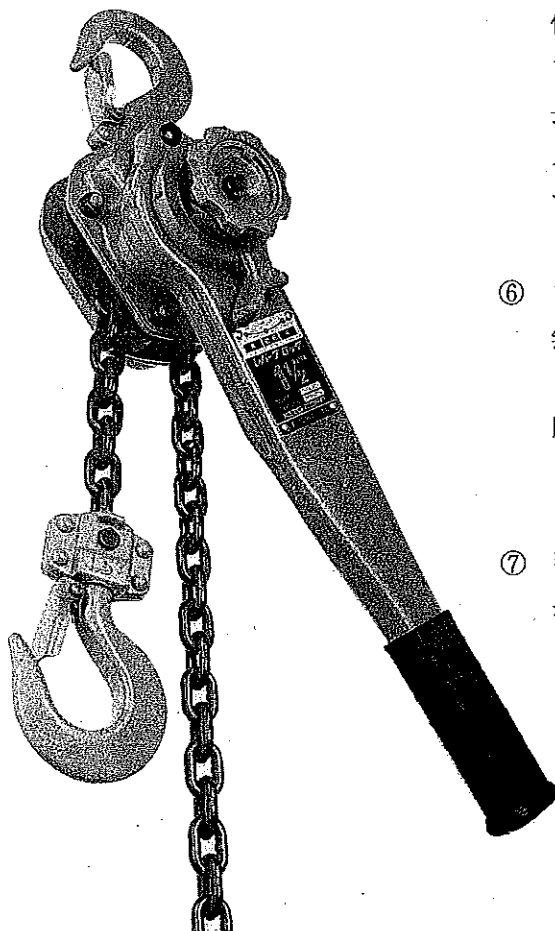
③ 上下フックと
フックラッチに変形や
傷はないか。
首部（フック）が軽く
回転するか。

④ ダブルタイプの
シタフックがトンボして、
ロードチェーンが
ねじれていないか。

⑤ 遊転機構が正常に
作動するか。
ロードチェーンの
長さの調節が
スムーズに
できるか。

⑥ ロードチェーン
無負荷側端末の
クサリトメリンクに
脱落や変形が
ないか。

⑦ 警告ラベルが
剥がれていないか。



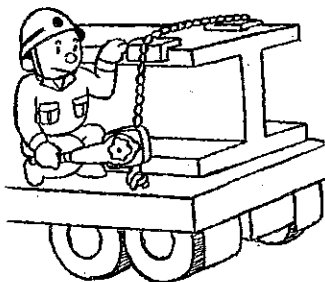
⚠ 危険 何か異常を発見したときは、直ちに使用を中止し、修理するか正常な製品に交換してください。

4-2 安全操作のための注意

⚠ 危険 誤った操作は死亡や重大な傷害事故の原因となります。そうした危険を避けるため……、

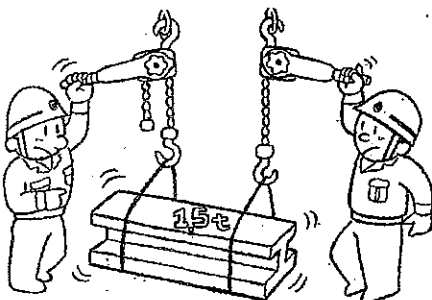
- 定格荷重を越える荷をつり上げてはいけません。
- 人をつり上げたり、人の頭上で作業したりしてはいけません。
- ロードチェーンが変形したり傷付いたレバーブロックは使ってはいけません。
- 故障したり、修理中のレバーブロックは使ってはいけません。
- 荷をつった状態で遊転操作をしてはいけません。
- ユーテンニギリ（ハヤマキニギリ）を片手で持ちながらレバー操作をしてはいけません。
- パイプを差し込み、レバーを長くして操作をしてはいけません。
- ロードチェーンをつり具代わりに荷に巻き付けて使ってはいけません。
- ロードチェーンを鉄板等の角にあてて操作してはいけません。
- フックの先端で荷重を受けるような操作をしてはいけません。
- フックラッチのとれたフックを使ってはいけません。
- 鉄板等をつった状態で、溶接作業や切断作業をしてはいけません。
- 溶接作業中ロードチェーンをアースとして使用してはいけません。
- 巻上げ過ぎ、巻下ろし過ぎ作業はしてはいけません。
- 荷をつった状態で長時間放置してはいけません。

〈荷締め作業〉



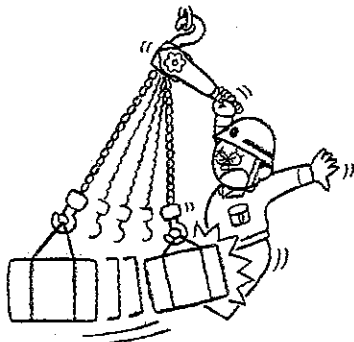
- 荷締め作業で、鋼材の角等にロードチェーンが直接あたる時、あて木等の緩衝材をかませて下さい。
- トラックの荷締めとして使用する時、走行時の衝撃なども考慮し、定格荷重は十分余裕を持って選択してください。

〈二丁つり作業〉



- A・Bそれぞれのレバーブロックで水平にバランス良くつり上げ操作してください。
- A・Bそれぞれのレバーブロックの定格荷重は十分余裕を持って選択してください。（左図の場合A・Bとも1.5tのレバーブロックをお使いください。）
- レバーブロックを使つての作業は荷の直近での操作となります。荷物を自分の足の上に落としたりしないよう十分注意して下さい。

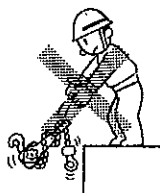
〈斜め引き作業〉



- 斜め引きは地切りの時、荷が揺れます。十分注意してください。

4-3 作業終了後の注意

▲ 注意 あなたの思いやりが次に使われる方の安全を確かなものにします。



- 持運びする時、引きずったり、放り投げたりしないでください。
- 汚れや水滴を拭い、フックの首部やロードチェーンに塗油して屋内に保管してください。
- ブレーキバンは乾式です。油は付けないでください。
- 定期的に点検をしてください。(使用頻度により月次、半年、一年ごと)



⚠ 危険

- 修理・点検は専任の保守管理者に任せるか、キトーにご相談ください。
- 修理に必要なレバーブロックは **点検中** 等の名札を付け、誤って使用されないよう区別してください。
- 修理のため、部品交換が必要な時は、必ず純正部品を使用してください。

5. オプション仕様

お客様の作業環境に合わせた幾つかのオプションを準備しております。一層の安全作業にお役立てください。(レバーブロックL4形のみ対応可)

- ロードシグナル……………過負荷警告装置。
- CLチェーン……………特殊ニッケル拡散処理した、錆に強いロードチェーン。

▲ 注意

あなたの作業環境にあったレバーブロックの仕様についてご相談をお受けしております。キトーまでお問合せください。

6. 管理の仕方

▲ 注意

重い荷を移動する時は、常に危険が存在します。誤った操作や、日頃の整備を怠ればなおさらです。正しい操作と正しい管理が安全を守る両輪といえます。正しい管理のポイントは……、

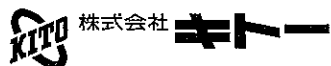
- 管理責任者を決める。
- 職場に適した作業規準や点検基準を決める。
- 教育による作業規準の徹底を図る。

▲ 注意

分解組立要領、トラブルシューティング、及び基準作りの参考となる点検要領、等の管理資料も別途準備しています。何なりとキトーまでご相談ください。

もし、この取扱説明書の内容に不明な点や、さらに詳細な情報をお知りになりたい方は、最寄りのキトーまでお問合せください。

お客様が末永く、キトーレバブロックを安全にご愛用いただけますこと、キトーは心より願っております。



本 社

山 梨 本 社	〒409-3853	山梨県中巨摩郡昭和町築地新居2000番地		
東 京 本 社	〒151-0053	東京都渋谷区代々木3-37-4	東京機器第1グループ TEL. (03)5371-7320 FAX. (03)5371-7318	
			東京機器第2グループ TEL. (03)5371-7340 FAX. (03)5371-7318	

営 業 所

札幌営業所	〒003-0022	札幌市白石区南郷通8丁目南1-8	TEL. (011)864-3264 FAX. (011)864-3265	
仙台営業所	〒983-0045	仙台市宮城野区宮城野2-10-36	TEL. (022)291-8145 FAX. (022)297-1976	
新潟営業所	〒950-0912	新潟市南笹口1-1-13	TEL. (025)247-1381 FAX. (025)243-0798	
小山営業所	〒323-0822	小山市駅南町2-18-3(ウェルストン小山II)	TEL. (0285)28-1141 FAX. (0285)28-1155	
熊谷営業所	〒360-0012	熊谷市上之852(大沢ビル1F)	TEL. (0485)27-8050 FAX. (0485)27-7370	
千葉営業所	〒260-0044	千葉市中央区松波1-11-3	TEL. (043)206-0611 FAX. (043)206-0614	
横浜営業所	〒223-0057	横浜市港北区新羽町776(KMビル102)	TEL. (045)546-3551 FAX. (045)546-3558	
甲信営業所	〒409-3853	中巨摩郡昭和町築地新居2000(山梨本社テクノセンター1F)	TEL. (055)275-7608 FAX. (055)275-7598	
名古屋営業所	〒467-0862	名古屋市瑞穂区堀田通6-10-2(平塚ビル)	TEL. (052)882-1641 FAX. (052)882-3880	
北陸営業所	〒920-0022	金沢市北安江1-1-1(坂口第2ビル1F-D)	TEL. (076)262-3611 FAX. (076)262-3880	
西部支社	〒572-0088	大阪府寝屋川市木屋元町11-20	TEL. (072)834-7511 FAX. (072)832-7028	
岡山営業所	〒700-0975	岡山市今5-13-36	TEL. (086)243-0882 FAX. (086)241-0926	
広島営業所	〒734-0023	広島市南区宇品御幸3-2-2	TEL. (082)251-8800 FAX. (082)251-8816	
福岡営業所	〒812-0007	福岡市博多区東比恵3-27-10	TEL. (092)483-6861 FAX. (092)483-6869	

商品サービス

製品グループ	〒409-3853	山梨県中巨摩郡昭和町築地新居2000	TEL. (055)275-7741 FAX. (055)275-6165	
名古屋部品センター	〒467-0862	名古屋市瑞穂区堀田通6-10-2(平塚ビル)	TEL. (052)882-1165 FAX. (052)882-3880	
大阪部品センター	〒572-0088	寝屋川市木屋元町11-20	TEL. (072)834-7512 FAX. (072)832-7028	
福岡部品センター	〒812-0007	福岡市博多区東比恵3-27-10	TEL. (092)483-6864 FAX. (092)483-6869	

注意：この取扱説明書は、事前の予告なく一部内容を変更することがあります。

取 扱 店